

「日本一の教会ホームページ」

主任司祭 晴佐久昌英

いよいよというべきか、やっとというべきか、このたび当教会にも光ケーブルが引かれ、インターネットを本格的に使用できる環境が整った。教会敷地内なら無線で接続できる仕様なので、大いに活用していただきたい。

インターネットの意義と価値についてはいまさら言うまでもないだろう。いつでもどこでも誰とでも、自由につながり自在に情報を交換できるこのシステムは、人類史を大きく変えるほどの豊かな可能性を秘めている。

それほどに先進的なシステムと教会とでは、どこか相容れないように感じるとしたら、それはまったく逆である。インターネットは、まさに教会のために開発されたと言えるほどに福音的な技術だからだ。その、あらゆる壁を越えて人と人を結ぶ力と、どんな人にも、特に弱者のための利益となる可能性を秘めた普遍性は、どこか聖霊の働きをすら思わせる。

「ガリラヤ中の会堂に行って宣教した」イエスは、弟子を「自分が行くつものすべての町や村に先に遣わされ」、復活した後は「行ってすべての民を私の弟子にしなさい」と命じた。あの時代にインターネットがあったなら、いつでもどこでも誰にでも福音を伝えたかったイエスが真っ先に使ったにちがいない。

昨年、教皇は、インターネットを「福音宣教の新たな場」と位置付けて、「インターネットは新千年紀の新境地であり、教会は福音を伝えるために冒険へ漕ぎ出すべきだ」「神の栄光のために、勇気を持ってネットの世界に深く踏み込みなさい」と奨励する文書を発表した。

魂を救う福音を保ちながらも、敷居が高く、重い扉に閉ざされがちだった教会に、インターネットという「どこでもドア」ができたのだ。すでにこのドアを開けて闇から光へと導かれた人、福音の喜びを知って洗礼の恵みにあずかった人が日本でも急速に増えつつある。

そんな教会の新しい扉として、高円寺教会もホームページを設けることとなり、立ち上げのための委員会が発足した。どうせやるなら、日本一のホームページを目指したい。冒険へ漕ぎ出したい方は、ぜひ参加していただきたい。